



便利に使おう ガイドブック

Vol.02

計算

画像付きで解説

アプリでは、計算式を設定できます。

設定した計算式に沿って、自動で値を算出することが可能です。

「店舗の客注管理」アプリを例に一緒に設定してみましょう！

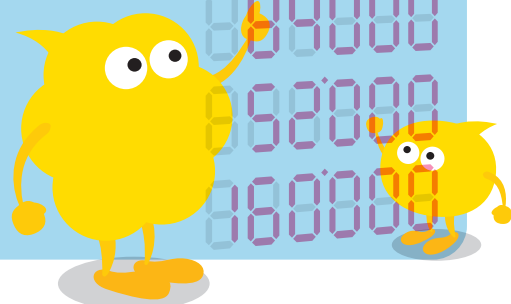
\ よくある活用シーン /

A	100
B	150
C	200
合計	450

発注した複数の商品の
合計金額を求めたいとき



受注日を基準に
対応締切日を
自動計算したいとき



目次

計算の導入前／導入後のイメージ	3
計算の導入前	3
計算の導入後	4
計算の基本	5
計算式のポイント	6
計算の設定方法	8
単価×数量を計算する(演算子)	9
Step 1 「単価」「数量」フィールドを設定する	10
Step 2 「小計」フィールドを設定する	12
Step 3 アプリを更新する	15
Step 4 計算結果を確認しよう	15
商品の種類ごとに、単価×数量を計算する(テーブルを利用した演算子)	16
Step 1 テーブルを設定する	17
Step 2 「サイズ」フィールドを設定する	19
Step 3 「単価」「数量」フィールドを設定する	21
Step 4 「小計」フィールドを設定する	23
Step 5 アプリを更新する	25
Step 6 計算結果を確認しよう	25
合計金額を計算する(SUM関数)	26
Step 1 「合計」フィールドを設定する	27
Step 2 アプリを更新する	31
Step 3 計算結果を確認しよう	31
合計金額に応じた割引率を設定する(IF関数)	32
Step 1 「仕切金額」フィールドを設定する	33
Step 2 アプリを更新する	36
Step 3 計算結果を確認しよう	36
計算の活用例	37
売上額の予算比と前年比を算出する	37
原価や利益率から、出荷価格を策定する	38
もっと便利に使うには	39
日付・時間を計算したい	39
複数のフィールドを結合したい	41
kintoneで利用できる演算子／関数	43
kintoneで利用できる演算子	43
kintoneで利用できる関数(SUM関数、IF関数以外)	44
AND関数	44
OR関数	45
NOT関数	46
CONTAINS関数	47
YEN関数	48
ROUND関数	49
ROUNDUP関数	50
ROUNDDOWN関数	51
DATE_FORMAT関数	52
おすすめコンテンツ一覧	53

計算の導入前／導入後のイメージ

〔 計算の導入前 〕

各フィールドに入力された値を手動で計算し、合計値を手入力していた



1680円 × 7冊 = 11760円



単価×数量を
手動で計算・入力

課題

- ✓ 手動で計算するため手間がかかる
- ✓ 入力ミスや計算ミスが発生してしまう

〔 計算導入後 〕



「店舗の客注管理」アプリで**計算式を設定**すると…



単価と数量を入力するだけで、
合計金額が自動入力される

メリ ット

- ✓ さまざまな計算が自動でできるため、手間がかからない
- ✓ 入力ミスや計算ミスを防げる

手配商品情報	
商品名	POS登録番号
雑誌	z-0005
単価	数量
1680	7
合計	
11,760 円	

「単価」と「数量」を入力すると、「合計」が自動入力されます

計算の基本

アプリに計算式を設定すると、複数の項目の合計値を計算式に沿って算出したり、関数を用いた条件式に沿って自動で値を割り出したりすることが可能です。

例:「交通費申請」アプリで、交通費の合計金額を計算する

交通費申請

アプリ: 交通費申請 | 一覧: 自分が作成したもの | レコード: 2023年12月交通費

申請する | 現在の作業者を変更

ステータス: 未申請 (下書き) | 現在の作業者: 佐藤 昇 | ステータスの履歴

申請者: 佐藤 昇

社員番号: 57773 | 所属部署: 営業部 | 承認者: 加藤 美咲

タイトル: 2023年12月交通費

日付	訪問先	交通手段	経路	金額
2023-12-08	金都運総研	電車 (片道)	本八幡⇄西船橋	308
2023-12-12	林田商会	電車 (往復)	市川⇄横浜	1424
2023-12-21	板橋電子株式会社	電車 (片道)	日本橋→水道橋	286
2023-12-21	帰宅	電車 (片道)	水道橋→本八幡	318

合計金額: 2336

備考欄

例:「タイムカード」アプリで、開始／終了時刻、休憩時間から勤務時間を計算する

タイムカード

アプリ: タイムカード | 一覧: (作業者が自分) | レコード: 1

申請する | 現在の作業者を変更

ステータス: 未申請 (下書き) | 現在の作業者: 佐藤 昇 | ステータスの履歴

作成日: 2023-12-08 | 承認者: 加藤 美咲

氏名: 佐藤 昇 | 社員番号: 057773 | 社員区分: 正社員

勤務実績登録

日付	開始	終了	休憩時間数	勤務時間
2023-12-01	9:00	18:00	60 分	8時間0分
2023-12-04	9:15	18:00	60 分	7時間45分
2023-12-05	9:00	18:00	60 分	8時間0分
2023-12-06	9:00	18:00	60 分	8時間0分

テーブル

日付	休憩時間数	理由
2023-12-04	15 分	電車遅延のため

計算式のポイント

ここでは、計算式を設定する際に押さえておくべき3つのポイントを解説します。

操作に入る前に、
計算式の基本を理解しておきましょう！



「計算」フィールド、または「文字列(1行)」フィールドで、 計算式を設定します

アプリで計算を設定するには、「計算」フィールド、または「文字列(1行)」フィールドの設定で、
計算式を入力します。

計算の設定

ヘルプ

設定手順の詳細

便利に使うガイドブック vol.02 計算編

フィールド名 *

小計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

単価*数量

☐ 計算式を表示しない

計算式を入力するときは、フィールドコードを利用します

フィールドコードとは、1つ1つのフィールドを識別するための文字列です。

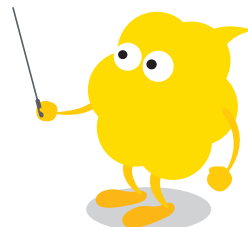
計算式では、このフィールドコードを利用して、他のフィールドを参照して計算します。

例:「単価」フィールド×「数量」フィールドの金額を計算したいとき
(フィールドコードが「単価」「数量」と設定されている場合)



以下のフィールドは、計算式で参照することができません。

- ラベル
- 文字列(複数行)
- リッチエディター
- 添付ファイル
- リンク
- ユーザー選択
- 組織選択
- グループ選択
- 関連レコード一覧
- スペース
- 罫線
- グループ
- レコード番号
- プロセス管理のステータス



計算式には、演算子や関数を利用できます

計算式では、半角の「+」「-」「*」「/」などの演算子や、「SUM」「IF」などの関数を利用することができます。

なお、演算子や関数は、ひとつの計算式の中で組み合わせて使うことが可能です。

kintoneで利用できる演算子と関数の詳細は、

P.47「kintoneで利用できる演算子／関数」を参照してください。

なお、次ページからは例として演算子「*」、SUM関数、IF関数の設定手順を紹介します。

計算の設定方法

計算を設定する方法を説明します。

ここでは例として、「店舗の客注管理」アプリで、以下の4つの計算を設定します。

- 商品の単価×数量を計算する(演算子)
- 商品の種類ごとに、単価×数量を計算する(テーブルを利用した演算子)
- 合計金額を計算する(SUM関数)
- 合計金額に応じた割引率を設定する(IF関数)

※ 本ガイドに沿って同じ操作を行ってみたい場合は、アプリストアから「店舗の客注管理」アプリを追加してください。追加方法は以下のヘルプをご参照ください。

kintoneヘルプ「サンプルアプリを追加する」

<https://jp.cybozu.help/k/ja/id/040622.html>



これから1つずつ一緒に設定していきましょう！



単価×数量を計算する (演算子)

「単価」フィールドと「数量」フィールドを入力すると、
計算結果が「小計」フィールドに表示されるようにする計算を設定してみましょう。

完成イメージ(レコード入力画面)

The screenshot shows a mobile application interface for '店入れ客注登録' (Store Entry Customer Order Registration). It includes a top navigation bar with icons for menu, home, notifications, and favorites, along with a search bar labeled 'アプリ内検索'. Below the navigation bar are 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save) buttons. The main form is divided into sections: '基本情報' (Basic Information) with fields for 'ご来店日' (2023-12-12), 'ご氏名' (佐藤 昇), 'ふりがな' (さとう のぼる), and '電話番号' (090-xxxx-xxxx); and '手配商品情報' (Order Item Information) with '商品名' (Tシャツ) and 'T-0001'. At the bottom, there is a table with three columns: '単価' (Unit Price), '数量' (Quantity), and '小計' (Subtotal). The '単価' field contains '3000', the '数量' field contains '15', and the '小計' field displays '45,000 円'. An orange callout box with an arrow pointing to the '小計' field contains the text: 「単価」フィールドと「数量」フィールドを入力すると、計算結果が「小計」フィールドに表示されます (When you input the 'Unit Price' and 'Quantity' fields, the calculation result is displayed in the 'Subtotal' field).

単価	数量	小計
3000	15	45,000 円

ここで設定する計算式は、以下のとおりです。

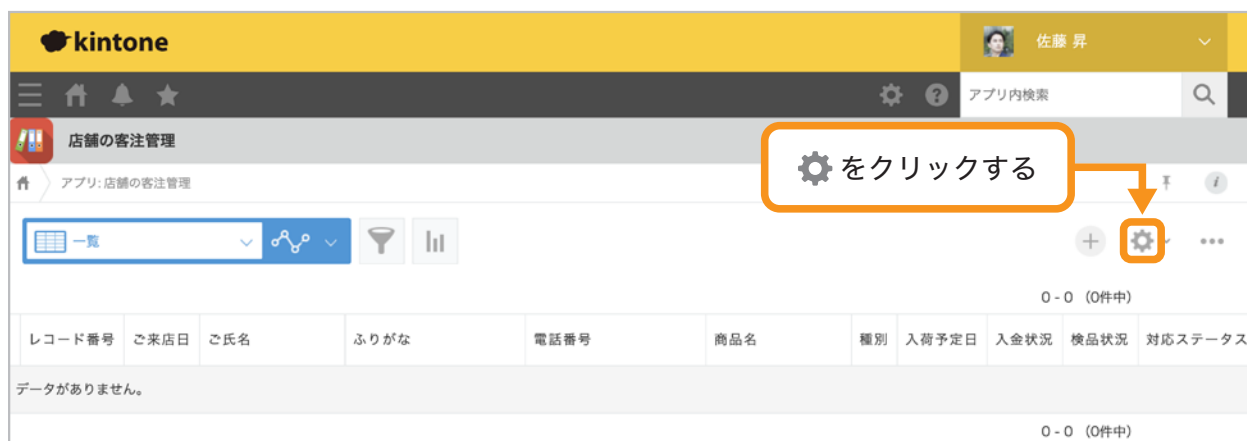
単価 * 数量

「単価」「数量」フィールドを設定する

商品の「単価」と「数量」を入力するための数値フィールドを配置・設定します。

1 フォームの設定画面を開く

「店舗の客注管理」アプリの画面で⚙️アイコンをクリックします。



2 数値フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「数値」フィールドを2つ配置します。



3 フィールド名とフィールドコードを設定する

配置した数値フィールドにポインタを合わせ、

右上に表示される⚙️アイコンから「設定」をクリックします。

それぞれの「フィールド名」と「フィールドコード」を、以下のとおり設定します。

- 1つ目の数値フィールド：
「フィールド名」と「フィールドコード」を、両方とも「単価」に設定する
- 2つ目の数値フィールド：
「フィールド名」と「フィールドコード」を、両方とも「数量」に設定する

数値の設定

? ヘルプ

フィールド名 *

単価

☐ フィールド名を表示しない

☐ 桁区切りを表示する

☐ 必須項目にする

☐ 値の重複を禁止する

値の制限 (整数で指定)

最小 最大

初期値

小数点以下の表示桁数

単位記号 ☒ 前に付ける (例: ¥100) ☐ 後ろに付ける (例: 100km)

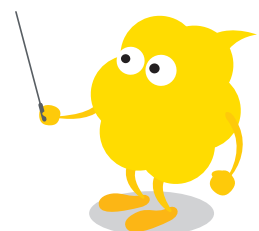
フィールドコード *

単価

保存 キャンセル

フィールド名とフィールドコードを入力する

計算に使うフィールドには、
忘れずにフィールドコードも設定しましょう！



「小計」フィールドを設定する

商品の「小計」(単価×数量)を表示するための計算フィールドを配置・設定します。

1 計算フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「計算」を配置します。

2 フィールド名を設定する

配置した計算フィールドにポインタを合わせ、右上に表示される

⚙️アイコンから「設定」をクリックします。「フィールド名」を「小計」に変更します。

3 計算式を設定する

「計算式」に、計算式を入力します。

ここでは、Step1で配置した「単価」と「数量」を掛け合わせたいので、「単価*数量」という計算式を入力します。

計算の設定

フィールド名 *

小計

☐ フィールド名を表示しない

計算式

関数を挿入する フィールドコードを挿入する 計算式の書き方 利用できる関数

単価*数量

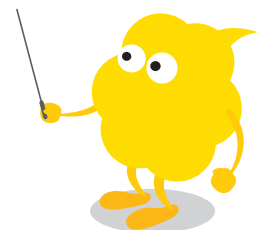
☐ 計算式を表示しない

☒ 数値 (例: 1000)

☐ 数値 (例: 1,000)

キャンセル 保存

「フィールドコードを挿入する」からも
フィールドコードの入力ができますよ。



4 その他の設定を行い、保存する

- 小計金額に桁区切りを表示するために、「数値(例:1,000)」を選択します。
- 小計金額の後ろに「円」を表示するために、「単位記号」に「円」を入力し、「後ろに付ける(例:100km)」を選択します。

計算の設定

? ヘルプ ? 設定手順の詳細 便利に使うガイドブック vol.02 計算編

フィールド名 *

小計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を押入する

フィールドコードを押入する

計算式の書き方

利用できる関数

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例: 1000)

☒ 数値 (例: 1,000)

☐ 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☐ 日付 (例: 2012-08-06)

☐ 時刻 (例: 2:03)

☐ 時間 (例: 26時間3分)

☐ 時間 (例: 1日2時間3分)

小数点以下の表示桁数

単位記号

円

☐ 前に付ける (例: ¥100)

☒ 後ろに付ける (例: 100km)

フィールドコード *

計算

キャンセル

保存

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

アプリを更新する

画面左側の「フォームを保存」をクリックし、
画面右上の「アプリを更新」をクリックして運用環境に適用します。

「フォームを保存」をクリックする

「アプリを更新」をクリックする

計算結果を確認しよう

レコード入力画面で「単価」フィールドと「数量」フィールドを入力して、
「小計」フィールドに計算結果が表示されることを確認してみましょう。

「単価」フィールドと「数量」フィールドを入力すると、
計算結果が「小計」フィールドに表示されます

商品の種類ごとに、単価×数量を計算する(テーブルを利用した演算子)

テーブルを使って計算すると、テーブル内の行ごとの計算や、
テーブル内のフィールドの合計値などを出すことができます。
また、テーブルの行は自由に増減できるため、
商品の種類やサイズごとの受注数の記入にも適しています。

ここでは例として、「S」「M」「L」サイズごとの単価と数量を入力し、計算を行います。

完成イメージ(レコード入力画面)

店入れ客注登録

基本情報

ご来店日 2023-12-13 ご氏名 佐藤 昇 ふりがな さとう のぼる 電話番号 090-xxxx-xxxx

手配商品情報

商品名 コーヒー豆

詳細

サイズ	単価	数量	小計
S		1500	5 7,500 円
M		2800	20 56,000 円
L		4000	15 60,000 円

種別 入荷予定日 2023-12-13 入金状況 未払い 検品状況 未検品

サイズごとの「単価」と「数量」を入力すると、それぞれの計算結果が「小計」フィールドに表示される

ここで設定する計算式は、以下のとおりです。

単価 a * 数量 a

テーブルを設定する

各フィールドを配置するためのテーブルを設定します。

1 テーブルフィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から、「テーブル」フィールドを配置します。



※ 既存のフィールドをテーブルにすることはできないので、ご注意ください。

2 テーブル名を設定する

配置した計算フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される⚙️アイコンから「テーブルの設定」をクリックします。

The screenshot shows the 'Form' editor interface. On the left is a sidebar with various field types like 'ラベル' (Label), 'リッチエディター' (Rich Editor), '数値' (Number), etc. The main area is titled '店入れ客注登録' (Store Customer Registration). It contains sections for '基本情報' (Basic Information) with fields for 'ご来店日' (Visit Date), 'ご氏名' (Name), 'ふりがな' (Kana), and '電話番号' (Phone Number). Below that is '手配商品情報' (Reservation Item Information) with '商品名' (Item Name) and 'POS登録番号' (POS Registration Number). The 'テーブル' (Table) section is highlighted with a blue background and contains a message: 'ここにフィールドをドラッグアンドドロップします。' (Drag and drop fields here). An orange box highlights the 'テーブルの設定' (Table Settings) button with the text '「テーブルの設定」を開く' (Open 'Table Settings').

「テーブル名」を「詳細」と設定し「保存」をクリックします。

The screenshot shows the 'テーブルの設定' (Table Settings) dialog box. It has a title bar with a close button. Below the title are links for 'ヘルプ' (Help), '設定手順の詳細' (Details of the setting procedure), and '便利にしようガイドブック vol.01 テーブル編' (Guidebook vol.01 Table Edition). The main content area has a 'テーブル名*' (Table Name*) field with '詳細' (Details) selected. Below it is a checkbox 'テーブル名を表示しない' (Do not display table name). There is also a 'フィールドコード*' (Field Code*) field with 'テーブル' (Table) entered. At the bottom are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save). An orange box highlights the '保存' button with the text '「テーブル名」を「詳細」と設定し、「保存」をクリックする' (Set 'Table Name' to 'Details' and click 'Save').

「サイズ」フィールドを設定する

商品の「サイズ」(S/M/L)を選択するためのドロップダウンフィールドを配置・設定します。

1 ドロップダウンフィールドを配置する

テーブル内に画面左側のフィールド一覧から「ドロップダウン」フィールドを配置します。

フォーム

一覧 グラフ 設定

フォームを保存

ラベル 文字列 (1行)

リッチエディター 文字列 (複数行)

数値 計算

ラジオボタン チェックボックス

複数選択 ドロップダウン

日付 時刻

日時 添付ファイル

リンク ユーザー選択

組織選択 グループ選択

関連レコード一覧 ルックアップ

スペース 罫線

グループ テーブル

レコード番号 作成者

作成日時 更新者

店入れ客注登録

基本情報

ご来店日 ご氏名 ふりがな 電話番号

2023-12-12

手配商品情報

商品名

詳細

ドロップダウン

フィールド一覧から、「ドロップダウン」フィールドを配置する

種別	入荷予定日	入金状況 *	検品状況 *
ドロップダウン			

2 ドロップダウンフィールドを設定する

配置した数値フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される⚙️アイコンから「設定」をクリックします。
各項目を以下のとおり設定し、「保存」をクリックします。

- 「フィールド名」: 「サイズ」
- 「項目と順番」: 「S」「M」「L」

※ 「項目と順番」の行は、「+」/「-」で追加／削除できます。

ドロップダウンの設定

? ヘルプ

フィールド名 *

サイズ

☐ 必須項目にする

項目と順番

↑ ↓	S	+ -
↑ ↓	M	+ -
↑ ↓	L	+ -

初期値

— ▼

フィールドコード *

ドロップダウン

キャンセル 保存

「単価」「数量」フィールドを設定する

商品の「単価」と「数量」を入力するための数値フィールドを配置・設定します

1 「数値」フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「数値」フィールドを2つ配置します。



2 フィールド名とフィールドコードを設定する

配置した数値フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される⚙️アイコンから「設定」をクリックします。

それぞれの「フィールド名」と「フィールドコード」を、以下のとおり設定します。

- 1つ目の数値フィールド：
「フィールド名」を「単価」、「フィールドコード」を「単価a」に設定する
- 2つ目の数値フィールド：
「フィールド名」を「数量」、「フィールドコード」を「数量a」に設定する

※ 同一アプリ内でフィールドコードの値は重複できないので、ご注意ください。

The screenshot shows a dialog box titled "数値の設定" (Numerical Settings). It contains several input fields and checkboxes. Two orange boxes highlight the "フィールド名" (Field Name) and "フィールドコード" (Field Code) fields, both containing the text "単価" (Unit Price) and "単価a" (Unit Price a) respectively. An orange arrow points from a central text box "フィールド名とフィールドコードを入力する" (Enter field name and field code) to both highlighted fields. The dialog also includes checkboxes for "桁区切りを表示する" (Show thousands separator), "必須項目にする" (Make required), and "値の重複を禁止する" (Prohibit duplicate values). There are also fields for "値の制限 (整数で指定)" (Value restriction (specify as integer)) with "最小" (Minimum) and "最大" (Maximum) inputs, an "初期値" (Initial value) field, a "小数点以下の表示桁数" (Number of digits after decimal point) field, and a "単位記号" (Unit symbol) field with radio buttons for "前に付ける (例: ¥100)" (Attach to front (example: ¥100)) and "後ろに付ける (例: 100km)" (Attach to back (example: 100km)). At the bottom, there are "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel) buttons.

数値の設定

? ヘルプ

フィールド名 *

単価

☐ 桁区切りを表示する

☐ 必須項目にする

☐ 値の重複を禁止する

値の制限 (整数で指定)

最小 最大

初期値

小数点以下の表示桁数

単位記号

☒ 前に付ける (例: ¥100) ☐ 後ろに付ける (例: 100km)

フィールドコード *

単価a

保存 キャンセル

フィールド名とフィールドコードを入力する

キャンセル 保存

「小計」フィールドを設定する


商品のサイズごとの「小計」(単価×数量)を表示するための計算フィールドを配置・設定します。

1 計算フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「計算」を配置します。



2 「計算」フィールドを設定する

配置した計算フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される  アイコンから「設定」をクリックします。
各項目を以下のとおり設定し、「保存」をクリックします。

- 「フィールド名」を「小計」に設定します。
- 「計算式」に「単価a*数量a」と入力します。
- 小計金額に桁区切りを表示するために、「数値(例:1,000)」を選択します。
- 小計金額の後ろに「円」を表示するために、「単位記号」に「円」を入力し、「後ろに付ける(例:100km)」を選択します。
- 「フィールドコード」を「小計」に設定します。

計算の設定

ヘルプ

設定手順の詳細

便利に使うガイドブック vol.02 計算編

フィールド名 *

小計

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

単価a*数量a

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例: 1000)

☒ 数値 (例: 1,000)

☐ 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☐ 日付 (例: 2012-08-06)

☐ 時刻 (例: 2:03)

☐ 時間 (例: 26時間3分)

☐ 時間 (例: 1日2時間3分)

小数点以下の表示桁数

単位記号

円

☐ 前に付ける (例: ¥100)

☒ 後ろに付ける (例: 100km)

フィールドコード *

小計

保存

キャンセル

キャンセル

保存

Step

5

アプリを更新する

画面左側の「フォームを保存」をクリックし、
画面右上の「アプリを更新」をクリックして運用環境に適用します。

「フォームを保存」をクリックする

「アプリを更新」をクリックする

Step

6

計算結果を確認しよう

レコード入力画面で、テーブル内の「単価」フィールドと「数量」フィールドを入力し、
「小計」フィールドに計算結果が表示されることを確認してみましょう。

サイズごとの「単価」と「数量」を入力すると、
それぞれの計算結果が「小計」フィールドに表示されます

サイズ	単価	数量	小計
S	1500	5	7,500 円
M	2800	20	56,000 円
L	4000	15	60,000 円

合計金額を計算する (SUM関数)

SUM関数を使うと、数値の合計を計算することができます。

ここでは、前ページまでに設定した、

テーブル内の「小計」フィールドの合計額を「合計」フィールドに表示する方法を説明します。

完成イメージ(レコード入力画面)

手配商品情報

商品名: コーヒー豆 POS登録番号: T-0001

詳細

サイズ	単価	数量	小計
S	1500	5	7,500 円
M	2800	20	56,000 円
L	4000	15	60,000 円

合計: 123,500 円

テーブル内の「小計」の合計値が「合計」に表示されます

ここで設定する計算式は、以下のとおりです。

SUM(小計)

「合計」フィールドを設定する

1 計算フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「計算」フィールドをテーブルの下に配置します。



2 フィールド名を設定する

配置した計算フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される⚙️アイコンから「設定」をクリックします。
「フィールド名」を「合計」に変更します。



3 計算式を設定する

「計算式」に、計算式を入力します。

ここでは、「計算式」の上の「関数を挿入する」をクリックし、
表示された関数の候補から「SUM(数値1, [数値2], …)」を選択します。

計算の設定

フィールド名 *

合計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する フィールドコードを挿入する 計算式の書き方 利用できる関数

関数 ROUNDOWN(数値, [桁数]) ? ヘルプ
指定した桁数になるように数値を切り上げます。

関数 SUM(数値1, [数値2], …) ? ヘルプ
数値を合計します。テーブル内のフィールドの数値も合計できます。

関数 DATE_FORMAT(フィールドコード, "日時形式", "タイムゾーン") ? ヘルプ
日時や日付などの値が指定した日時形式の文字列に変換され、表示されます。

キャンセル 保存

続いて、「フィールドコードを挿入する」をクリックし、
表示されたフィールドコードの候補から「小計」を選択します。

※ 計算式に「SUM(小計)」と直接入力することもできます。

計算の設定

フィールド名 *

合計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する フィールドコードを挿入する 計算式の書き方 利用できる関数

SUM()

フィールドコード 単価
123 フィールド名: 単価

フィールドコード 数量
123 フィールド名: 数量

フィールドコード 小計
フィールド名: 小計

キャンセル 保存

これで、「SUM(小計)」という計算式を設定できました。

計算の設定

フィールド名 *

合計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

SUM(小計)

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例 : 1000)

☒ 数値 (例 : 1,000)

☐ 日時 (例 : 2012-08-06 2:03)

☐ 日付 (例 : 2012-08-06)

☐ 時刻 (例 : 2:03)

キャンセル

保存

4 その他の設定を行い、保存する

計算フィールドの残りの項目を、以下のとおり設定します。

- 小計金額に桁区切りを表示するために、「**数値(例:1,000)**」を選択します。
- 小計金額の後ろに「円」を表示するために、
「単位記号」に「円」を入力し、「**後ろに付ける(例:100km)**」を選択します。
- 「フィールドコード」を「**合計**」に設定します。

計算の設定

フィールド名 *

合計

☐ フィールド名を表示しない

計算式 * [関数を挿入する](#) [フィールドコードを挿入する](#) [計算式の書き方](#) [利用できる関数](#)

SUM(小計)

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例: 1000)

☒ 数値 (例: 1,000)

☐ 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☐ 日付 (例: 2012-08-06)

☐ 時刻 (例: 2:03)

☐ 時間 (例: 26時間3分)

☐ 時間 (例: 1日2時間3分)

小数点以下の表示桁数

単位記号

円 ☐ 前に付ける (例: ¥100) ☒ 後ろに付ける (例: 100km)

フィールドコード *

合計

保存 キャンセル

キャンセル 保存

設定が完了したら、「**保存**」をクリックします。

Step

2

アプリを更新する

画面左側の「フォームを保存」をクリックし、
画面右上の「アプリを更新」をクリックして運用環境に適用します。

店舗の客注管理

「フォームを保存」をクリックする

変更を中止

アプリを更新

最終更新者と日時 佐藤 昇 14:02

フォーム

一覧

グラフ

設定

フォームを保存

店入れ客注登録

「アプリを更新」をクリックする

基本情報

ご来店日 2023-12-14

ご氏名

ふりがな

電話番号

手配商品情報

商品名

POS登録番号

Step

3

計算結果を確認しよう

レコード入力画面で、テーブル内の「小計」フィールドの合計値が
「合計」フィールドに表示されることを確認してみましょう。

手配商品情報

商品名

POS登録番号

コーヒード

T-0001

詳細

サイズ	単価	数量	小計
S	1500	5	7,500 円
M	2800	20	56,000 円
L	4000	15	60,000 円

合計

123,500 円

テーブル内の「小計」フィールドの合計値が
「合計」フィールドに表示されます

合計金額に応じた割引率を設定する(IF関数)

IF関数を使うと、設定した条件に沿って計算結果を変えることができます。

ここでは、前ページまでに設定した「合計」フィールドの金額が

1万円以上の場合は15%割引した金額、

1万円未満の場合はそのままの金額を「仕切金額」フィールドに表示する方法を説明します。

完成イメージ(レコード入力画面)

詳細

サイズ	単価	数量	小計
S			
M			
L		4000	15 60,000 円

「合計」フィールドが1万円以上の場合、
15%割引された金額が「仕切金額」フィールドに表示されます

合計 123,500 円
仕切金額 104,975 円

ここで設定する計算式は、以下のとおりです。

IF(合計 >= 10000, 合計 * 0.85, 合計)

「仕切金額」フィールドを設定する

1 計算フィールドを配置する

画面左側のフィールド一覧から「計算」フィールドを「合計」の右側に配置します。



2 フィールド名を入力する

配置した計算フィールドにポインタを合わせ、
右上に表示される⚙️アイコンから「設定」をクリックします。
「フィールド名」を「仕切金額」に変更します。

計算の設定

ヘルプ

設定手順の詳細

便利に使うガイドブック vol.02 計算編

フィールド名 *

仕切金額

☐
 フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を入力する

フィールドコードを入力する

計算式の書き方

利用できる関数

☐
 計算式を表示しない

☐
 数値 (例: 1000)

☒
 数値 (例: 1,000)

☐
 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☐
 日付 (例: 2012-08-06)

キャンセル

保存

3 計算式を設定する

「計算式」に、計算式を入力します。

ここでは、「合計金額」フィールドが1万円以上であれば15%引きの金額、
1万円未満であればそのままの金額を表示する計算式として、以下を入力します。

「IF(合計>=10000,合計*0.85,合計)」

計算の設定

[ヘルプ](#) [設定手順の詳細](#) [便利に使うガイドブック vol.02 計算編](#)

フィールド名 *

仕切金額

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

IF(合計>=10000,合計*0.85,合計)

4 その他の設定を行い、保存する

計算フィールドの残りの項目を、以下のとおり設定します。

- 小計金額に桁区切りを表示するために、「数値(例:1,000)」を選択します。
- 小計金額の後ろに「円」を表示するために、「単位記号」に「円」を入力し、「後ろに付ける(例:100km)」を選択します。
- 「フィールドコード」を「仕切金額」に設定します。

計算の設定

[ヘルプ](#) [設定手順の詳細](#) [便利に使うガイドブック vol.02 計算編](#)

フィールド名 *

仕切金額

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

IF(合計>=10000,合計*0.85,合計)

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例: 1000)

☒ 数値 (例: 1,000)

☐ 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☐ 日付 (例: 2012-08-06)

☐ 時刻 (例: 2:03)

☐ 時間 (例: 26時間3分)

☐ 時間 (例: 1日2時間3分)

小数点以下の表示桁数

単位記号

円

☐ 前に付ける (例: ¥100)

☒ 後ろに付ける (例: 100km)

フィールドコード *

仕切金額

キャンセル

保存

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

Step

2

アプリを更新する

画面左側の「フォームを保存」をクリックし、
画面右上の「アプリを更新」をクリックして運用環境に適用します。

Step

3

計算結果を確認しよう

レコード入力画面で、「合計」フィールドの値によって
「仕切金額」フィールドの値が変わることを確認してみましょう。

計算の活用例

売上額の予算比と前年比を算出する

「店舗日報」アプリなどで、売り上げ、予算、前年の売り上げを入力すると、予算比と前年比を算出できます。

計算式の例：

売上 / 予算 * 100

売上 / 前年 * 100

実績			
売上	予算	予算比	
<input type="text" value="1000"/> 千円	<input type="text" value="950"/> 千円	<input type="text" value="105.26"/> %	
	前年	前年比	
	<input type="text" value="880"/> 千円	<input type="text" value="113.64"/> %	
お客様数	客単価		
<input type="text" value="283"/> 人	<input type="text" value="3533.6"/> 円		

原価や利益率から、出荷価格を策定する

「輸入品価格管理」アプリなどで、輸入品の輸入価格や利益率を設定し、出荷価格を策定できます。

計算式の例：

$$\text{輸入価格} * (1 + (\text{利益率} * 0.01))$$

輸入品価格表				
製品情報				
作成日時 * (自動入力)	年度	月	為替レート (1ドル)	
	2024年	1月	¥	145
区分	モデル名	販売先		
オーディオ	AB-CD	板橋電子株式会社		
価格情報				
原価	輸入価格 (Landed Costを含む)	利益率	出荷価格	
¥ 1950	¥ 2400	12 %	2,688	

もっと便利に使うには

日付・時間を計算したい

kintoneでは、数値の他に、日付、日時、時刻、時間も計算できます。
経過日数や所要時間を割り出したい場合などに役立ちます。

なお、kintoneでは日付や日時を秒単位で扱うため、計算式も秒単位で設定します。
たとえば1分間は「60」と入力します。1時間は「3600」または「60*60」、
1日は「86400」または「60*60*24」と入力します。

例：「対応締切日」フィールドに、レコード作成日の7日後の日付を表示したい場合：
「対応締切日」フィールドに、以下の計算式を設定します。

作成日時 + (60*60*24*7)

計算式の設定画面

計算の設定

[ヘルプ](#)
[設定手順の詳細](#)
[便利に使うガイドブック vol.02 計算編](#)

フィールド名 *

対応締切日

☐ フィールド名を表示しない

計算式 *

関数を挿入する

フィールドコードを挿入する

計算式の書き方

利用できる関数

作成日時 + (60*60*24*7)

☐ 計算式を表示しない

☐ 数値 (例: 1000)

☐ 数値 (例: 1,000)

☐ 日時 (例: 2012-08-06 2:03)

☒ 日付 (例: 2012-08-06)

キャンセル

保存

完成イメージ(レコード入力画面)

依頼日時 *

2023-12-14 12:01

対応締切日

2023-12-21

依頼者

加藤 美咲

依頼事項

名刺発注

▼

至急

☐ 至急

依頼内容詳細

部署異動に伴い、新しい名刺の発注をお願いいたします。

複数のフィールドを結合したい

kintoneでは、複数のフィールドの入力値を結合し、まとめて表示することが可能です。
住所や氏名など、複数のフィールドに分けて入力した内容を
1つのフィールドに表示したい場合に役立ちます。

複数のフィールドを結合する場合は、以下の設定を行います。

1 結合したいフィールドを配置する

2 結合結果を表示する文字列(1行)フィールドを配置し、 以下の設定を行う

- 「自動計算する」にチェックを入れる
- 「計算式」に結合したいフィールドのフィールドコードを入力し、
間に「&」を入力する

※ 任意の文字や空白を追加する場合は、「& " "&」を使います。

例: 「住所」フィールドに、「都道府県」、「市区町村」、「丁目以下」、「建物名」、「階」の入力値を
結合して表示したい場合:

「住所」フィールドに、以下の計算式を設定します。

都道府県&市区町村&丁目以下&建物名&階

文字列(1行)フィールドの設定画面

ABC

文字列（1行）の設定

×

ヘルプ

フィールド名 *

住所

☐ フィールド名を表示しない

☒ 自動計算する

計算式

関数を押入する

フィールドコードを押入する

計算式の書き方

利用できる関数

都道府県&市区町村&丁目以下&建物名&階

☐ 計算式を表示しない

フィールドコード *

キャンセル

保存

完成イメージ(レコード入力画面)

受注・出荷管理

基本情報

顧客名

サイボウズ株式会社

担当者

加藤 美咲

×

都道府県

市区町村

丁目以下

建物名

階

東京都

中央区

日本橋 2-7-1

東京日本橋タワー

27階

住所

東京都中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー27階

品名

製番

累計受注数量

累計出荷数量

注文残

BA-2343

901234

4,450 pcs

600 pcs

3,850 pcs

受注履歴

kintoneで利用できる演算子／関数

kintoneで利用できる演算子

kintoneで利用できる演算子は、以下のとおりです。

演 算 子	説 明
+	数値の足し算を行います。
-	数値の引き算を行います。 単項演算子として、フィールドの値の正負を変換する目的にも使用できます。
*	数値の掛け算を行います。
/	数値の割り算を行います。
^	数値のべき算を行います。-100乗から100乗まで計算できます。 べき指数に小数を指定すると、整数に切り下げて計算されます。 例: 3^2.5は3^2に変換され、計算結果は9になります。
&	文字列または数値を結合します。 数値型または文字列型のフィールドが参照されていて未入力の場合は、空文字列とみなして結合します。
=	文字列または数値の値が等しければ真、等しくなければ偽を返します。 型が異なる比較は偽になります。
!=	「=」の比較結果を反転させたものになります。 型が異なる比較は真になります。
<>	!=と同様の結果になります。
<	左の値が右の値より小さければ真、右の値以上であれば偽を返します。
<=	左の値が右の値以下であれば真、右の値より大きければ偽を返します。
>	左の値が右の値より大きければ真、右の値以下であれば偽を返します。
>=	左の値が右の値以上であれば真、右の値より小さければ偽を返します。

kintoneで利用できる関数(SUM関数、IF関数以外)

「計算の設定方法」で紹介したSUM関数、IF関数のほかにも、kintoneでは色々な関数を利用できます。

ここでは、SUM関数、IF関数以外の関数の概要と活用例を紹介します。

AND関数

【概要】

AND関数は、計算式で設定した条件がすべて真のときは真を返し、そうでなければ偽を返す関数です。

AND関数の構文：

AND(条件式1,条件式2, ...)

【利用シーン】

例：採点管理アプリで、「学科」と「実技」が80点以上であれば「合格」、そうでなければ「再受験」と表示する場合の計算式

IF(AND(学科>=80,実技>=80),"合格","再受験")

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

学科と実技が80点以上の場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
80 点	95 点
結果	
合格	

学科と実技が80点以上でない場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
75 点	95 点
結果	
再受験	

OR関数

【概要】

OR関数は、計算式で設定した条件のいずれかが真のときは真を返し、すべての条件式が偽のときは偽を返す関数です。

OR関数の構文：

OR(条件式1,条件式2, ...)

【利用シーン】

例：採点管理アプリで、「学科」と「実技」のどちらかが80点以上であれば「合格」、それ以外は「再受験」と表示する場合の計算式

IF (OR (学科>=80,実技>=80),"合格","再受験")

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

学科と実技のうち、いずれかが80点以上の場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
90 点	75 点
結果	
合格	

学科と実技のうち、いずれも80点以上でない場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
75 点	75 点
結果	
再受験	

NOT関数

【概要】

NOT関数とは、計算式で設定した条件が偽のときは真を返し、条件式が真のときは偽を返す関数です。

NOT関数の構文：

NOT(条件式1)

【利用シーン】

例：採点管理アプリで、「学科」と「実技」の合計点数が160点以上でない場合は「再受験」、合計点数が160点以上の場合は「合格」と表示する場合の計算式

IF(NOT(学科+実技 >= 160), "再受験", "合格")

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

学科と実技の合計点数が、160点以上でない場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
75 点	80 点
結果	
再受験	

学科と実技の合計点数が、160点以上の場合

試験日	氏名
2023-12-14	佐藤 昇
学科	実技
70 点	90 点
結果	
合格	

CONTAINS関数

【概要】

CONTAINS関数は、指定したフィールドの中で、指定した文字列と完全に一致するものがあれば真を返し、そうでない場合は偽を返す関数です。

CONTAINS関数の構文：

CONTAINS(フィールドコード, "検索文字列")

【利用シーン】

例：シフト管理アプリで、「来週のシフト希望」フィールドに「日曜日」が含まれている場合に、「日曜出勤」フィールドに「日曜出勤あり」と表示する場合の計算式

IF(CONTAINS(来週のシフト希望,"日曜日"),"日曜出勤あり","日曜出勤なし")

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

来週のシフト希望に、日曜日が含まれている場合

氏名	佐藤昇
来週のシフト希望	日曜出勤
<input checked="" type="checkbox"/> 月曜日 <input type="checkbox"/> 火曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 水曜日 <input type="checkbox"/> 木曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 金曜日 <input type="checkbox"/> 土曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 日曜日	日曜出勤あり

来週のシフト希望に、日曜日が含まれていない場合

氏名	佐藤昇
来週のシフト希望	日曜出勤
<input type="checkbox"/> 月曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 火曜日 <input type="checkbox"/> 水曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 木曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 金曜日 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日 <input type="checkbox"/> 日曜日	日曜出勤なし

YEN関数

【概要】

YEN関数とは、指定した桁数で計算結果を四捨五入し、3桁ごとの桁区切りの「¥(円)」の形式で表示する関数です。

YEN関数の構文：

YEN(数値, 桁数)

【利用シーン】

例：「税込価格」フィールドの値を小数第2位で四捨五入し、「¥(円)」形式で表示する場合の計算式

YEN(税込価格, 1)

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

作成者				
 佐藤 昇				
タイトル				
水道橋店舗 備品注文				
テーブル				
商品名	単価	数値	小計	
十字穴付 (+) トラス小ねじ		1.74	24	41.76
釘 (スクリュー平頭 (1KG))		3.25	28	91
合計金額		合計金額 (¥表示)		
132.76		¥132.8		

ROUND関数

【概要】

ROUND関数は、指定した桁数で数値を四捨五入する関数です。

ROUND関数の構文：

ROUND(数値,桁数)

【利用シーン】

例：「税込価格」フィールドの値を小数第1位で四捨五入して表示する場合の計算式

ROUND(小計 * 1.1,0)

完成イメージ(レコード入力画面)

店入れ客注登録			
基本情報			
ご来店日	ご氏名	ふりがな	電話番号
2023-12-14	佐藤 昇	さとう のぼる	090-xxxx-xxxx
手配商品情報			
商品名	POS登録番号		
コーヒー豆 (中)	C-0003		
単価	数量	小計	税込価格
350.45	7	2,453.15 円	2698
種別	入荷予定日	入金状況 *	検品状況 *
倉庫取り寄せ	2023-12-01	<input type="radio"/> 未払い <input checked="" type="radio"/> 支払済	<input type="radio"/> 未検品 <input checked="" type="radio"/> 検品済

ROUNDUP関数

【概要】

ROUNDUP関数は、指定した桁数で数値を切り上げる関数です。

ROUNDUP関数の構文：

ROUNDUP(数値, 桁数)

【利用シーン】

例：「税込価格」フィールドの値を小数第1位で切り上げて表示する場合の計算式

ROUNDUP(小計* 1.1,0)

完成イメージ(レコード入力画面)

店入れ客注登録			
基本情報			
ご来店日	ご氏名	ふりがな	電話番号
2023-12-14	佐藤 昇	さとう のぼる	090-xxxx-xxxx
手配商品情報			
商品名	POS登録番号		
コーヒー豆 (中)	C-0003		
単価	数量	小計	税込価格
350.45	7	2,453.15 円	2699
種別	入荷予定日	入金状況 *	検品状況 *
倉庫取り寄せ	2023-12-01	<input type="radio"/> 未払い <input checked="" type="radio"/> 支払済	<input type="radio"/> 未検品 <input checked="" type="radio"/> 検品済

■ ROUNDDOWN関数

【概要】

ROUNDDOWN関数は、指定した桁数で数値を切り捨てる関数です。

ROUNDDOWN関数の構文：

ROUNDDOWN(数値, 桁数)

【利用シーン】

例：「税込価格」フィールドの値を小数第1位で切り捨てて表示する場合の計算式

ROUNDDOWN(小計* 1.1,0)

完成イメージ(レコード入力画面)

店入れ客注登録				
基本情報				
ご来店日	ご氏名	ふりがな	電話番号	
2023-12-14	佐藤 昇	さとう のぼる	090-xxxx-xxxx	
手配商品情報				
商品名	POS登録番号			
コーヒー豆（中）	C-0003			
単価	数量	小計	税込価格	
350.45	7	2,453.15 円	2698	
種別	入荷予定日	入金状況 *	検品状況 *	
倉庫取り寄せ ▼	2023-12-01	<input type="radio"/> 未払い <input checked="" type="radio"/> 支払済	<input type="radio"/> 未検品 <input checked="" type="radio"/> 検品済	

DATE_FORMAT関数

【概要】

DATE_FORMAT関数は、日時の形式やタイムゾーンを変更する関数です。

DATE_FORMAT関数の構文：

DATE_FORMAT(日時, "日時の形式", "タイムゾーン")

※ 日時の形式やタイムゾーンの詳細は、以下のヘルプをご参照ください。

kintoneヘルプ「[DATE_FORMAT関数]日付や時刻の表示形式を指定して表示する」

<https://jp.cybozu.help/k/ja/id/040501.html>



【利用シーン】

例：「日付」フィールドに「2024-04-01」と入力すると、
「2024年4月1日」と表示されるようにする計算式

DATE_FORMAT(日付, "YYYY年M月d日", "Etc/GMT")

※ 結果が文字列のため、計算式は「文字列(1行)」フィールドに入力します。

完成イメージ(レコード入力画面)

日付	訪問先
<input type="text" value="2024-04-01"/>	<input type="text" value="金都運総研"/>
担当者	
<input type="text" value="佐藤 昇"/>  	
 佐藤 昇 	
タイトル	
<input type="text" value="2024年4月1日 金都運総研"/>	



お疲れ様でした！
これであなたも計算のマスターです！





おすすめコンテンツ一覧

このガイドブックを活用してくださったあなたへ
kintoneをもっと便利に使いこなすためのコンテンツを紹介します！



講師に教えてもらいながら機能を学びたい方

kintone ハンズオンセミナー 便利に使おう講座

便利に使おうガイドブックをなぞって、実際に操作しながら演習を通じて機能を学ぶことができます。

<https://page.cybozu.co.jp/-/cy-handson-k/>

※定員に達し次第受付終了となります。あらかじめご了承ください。



マニュアルを見ながら自分で設定したい方

kintone ヘルプ

本ガイドに掲載しきれなかった、より細やかなkintoneの操作方法や、各機能の設定方法の手順をご確認いただけます。

<https://jp.cybozu.help/k/ja/>



ヘルプを見ても解決しなかった・操作方法に困った方

カスタマーサポート

電話、メールまたはチャットでお問い合わせいただけます。

「こんなことで問い合わせてもいいのかな？」というときも、安心してご相談ください。

サイボウズのサポートメンバーがよろこんでお手伝いします。

<https://kintone.cybozu.co.jp/support/tel.html>



kintoneの基礎について学びたい・導入したばかりの方

kintone スタートガイドセミナー

導入から社内への浸透・定着までに必要なことを4つのステップで学ぶことができるセミナーです。4ステップを60分以内で学べる動画も公開中。

<https://kintone.cybozu.co.jp/support/arukikata/kintone-startguide-seminar/>

